

茨木高校野球部

OB会報

発行
大阪府立茨木高校
野球部OB会

「まるで昨日のことのような

高30回 中江 理晶



OBの皆様には益々ご健勝のことと存じます。高校30回主将の中江と申します。

早いもので、卒業後32年が過ぎ、私たちもいよいよ50歳、半世紀を迎える年になりました。

私たちの学年は、あのベスト4進出時の1年生で、ベンチにも5人ほど入らせていただき、先輩とともに大きな感動を味あわせていただきました。

2年生の夏は、バッティングは絶好調で3安打しましたが、私がエラーを重ね、3-4で逆転負けを喫し、3年生に夏の1勝を味わっていただけなかつたことは、今でも悔いが残っています。

ベスト4進出を機にOB会の活動が活発になり、3年生になる春休みには、小豆島遠征に行かせていただきました。先輩方の好意を踏みにじるが

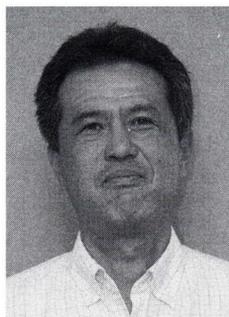
ごとく、全くの修学旅行気分です。2戦とも惨敗。いつも笑顔で怒った顔など見たことがなかった阪阪監督もこの時はかなり怒り頂点、帰りの船の中で「明後日、浪商に遠征に来る水島工業戦で負けたら、帰ってからグラウンド30周走らすからな」ときつい一言。試合当日、阪急茨木からバスに乗り込むと、水島工業の選手たちも同乗。真っ黒に日焼けした、がっちりした体型の面々に、「帰ったら30周やな」と半ばあきらめの心境でした。実は、私は小豆島遠征まではキャプテンだったのですが、エース尾崎君の故障もあり、やむなく先発を任せられました。試合の結果は、相手が1.5軍とは言え、持ち味のコントロールの悪さが逆に幸いしたのか、12-1で完勝。しかも1安打完投。これを機に主戦投手になったように思います。水島工業は後の試合で浪商に勝利。しかもこの年の夏、岡山代表として甲子園出場を果たしています。

私たちの学年は、典型的な打のチームでした。4番和田君を中心に打撃陣は、強豪校にも打ち勝つほどでしたが、自分で言うのもなんですが、コントロール難のピッチャーを含め、ディフェンス面が大きな課題でした。それでも春の大会も2勝し、手応えを感じながら最後の夏を迎えました。大会直前に左手首腱鞘炎を患いましたが、ピッチングには影響なく、初戦の2回戦を11-2でワールド勝ち、3回戦の相手は、秋の大会で苦杯を舐めさせられた今宮工業。この日は、自分でも驚くほど絶好調でストライク、カーブとも思いどおりのところに決まり8-1で2戦連続のワールド勝ちを収めました。4回戦は商大附属。1番バッターを2ストライクと追い込み、インコース高めへ渾身のストレート。見事にレフト前へ弾き返されました。この一打は大変シヨクで、この回1点先制されてしまいました。今泉君のホームランで同点に追いついた直後の4回、2アウト満塁からバッター間上がったフライを和田君と交錯し、私が落球してしまい、走者一掃。後、頭が真っ白白で連打を浴び、終われば、8回ワールド負け。今でも、冷静さを失った自分が情けなく、みんなに申し訳ない思いでいっぱいです。やはり高校生にはメンタル面が非常に重要だと思います。

今年から同級の和田君が母校に赴任し、野球部の指導にあたることになりました。私も昨年からはOB会事務局のお手伝いをさせていただくことになり、泉会長始め多くの先輩方と現役の試合を観戦する機会が増えました。今年のチームは、私たちとは違い、池永先輩の指導のもと、守備力の高いチームだと思います。夏もきつと勝ち上がってくれること期待しています。OBの皆様もぜひ後輩たちの応援に駆けつけていただくことをお願いしまして、結びとさせていただきます。

部長より

高30回 和田 充司



OBの皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この四月より縁あって茨高に帰ってまいりました。先日実に三十二年ぶりにユニフォームに袖を通しましたが、その瞬間は喜びと同時に何やら気恥ずかしさも覚えました。十代のころのさまざまに揺れ動く自分自身を毎日つづんでいたあのユニフォームは私にとつては青春のしるしです。昨年までは十六年という長きに渡って、桜塚高校に勤務しておりましたの

で実際のところは授業その他新しい環境に慣れるのに四苦八苦しているうちにひと月が過ぎました。野球部のほうでもノック等をさせていただきましたが、まだまだ一人一人の選手の特徴をつかむまでにはいたしません。ただ、あまり周りの見えないうちの日々の中でもやはり茨高独特の空気が校舎にもグッと漂っていることは肌で感じます。それは三年前のこの会報で小川先輩というかわれわれにとってはキャプテン張本さんがベスト4進出を振り返って書かれた「文の中に『自主管理』の気風です。私が高校野球部の指導をするようになってからも自分が1年生だったあときのチームのことはひとつの理想として常に頭にありました。もちろん時代も高校野球を取り巻く状況も子供たちの気質も変化する中理想だけではうまくいかないことも経験してきました。むしろ正反対に強力な管理野球の方向へ知らず知らず向かっていたかもしれないという自戒もあります。今回の転勤を機に度自分の中ですべてをリセットしてこれからの茨高野球のスタイルを模索したいと考えています。

一面でわれわれの主将中江君も書かれているように、現役時代にはOB、先輩の皆様のおかげで本当に幸せな経験をさせていただきました。これから少しでも恩返しができるように日々力を尽くすつもりです。どうかよろしくお願いたします。